

DoJa-5.1 API iα ppli Development Kit リリースノート

3.13 版

平成 24 年 8 月 31 日
株式会社 NTT ドコモ

改版履歴

版数	項目	種別	内容	
1.00	-	新規	-	2007年8月 FOMA 905i向け 制定 <iappli Development Kit for DoJa-5.1(FOMA)>
1.10	-	変更	改版内容	JBlend 部分の差し替えに伴う修正
			改版理由	不具合対応
	-	変更	改版内容	ビルド時に一部の全角文字(“~”(WAVE DASH)及び“-”(MINUS SIGN))が正しく変換されず文字化けする不具合の対処を実施
			改版理由	不具合対応
1.11	-	変更	改版内容	異なるサイズのフォントを多重利用した場合、画面表示が崩れる事がある不具合の対処を実施
			改版理由	不具合対応
	-	変更	改版内容	KEY_PRESSED_EVENT でネイティブ連携(Phone#call 等)を実行した場合、レジューム後に Canvas#getKeypadState の値が不正になる不具合を修正
			改版理由	不具合対応
2.00	-	追加	-	2008年 春モデルおよびらくらくホンプレミアム向け対応
2.01	-	変更	改版内容	- CallRecord#getLastRecord(int type)を実行した場合、エミュレータが異常終了する事がある不具合の対処を実施 - PhoneSystem#setAttribute を利用してバックライト・バイブレータの ON/OFF を連続して実行した場合、エミュレータが不正な動作をする事がある不具合の対処を実施
			改版理由	不具合対応
3.00	-	追加	-	2008年 らくらくホンV対応
3.10	制限事項	変更	改版内容	動作保証範囲から Windows 2000 を除外し、新たに Windows 7 を追加
			改版理由	動作環境条件変更
	制限事項	変更	改版内容	Windows 7 環境での制限事項を追加
			改版理由	動作環境条件変更
	-	変更	改版内容	対応 JDK バージョンを J2SE 1.4.2_04 から Java SE 6.0 Update22 に変更
			改版理由	動作環境条件変更
	-	変更	改版内容	Sun Java Studio Enterprise／Net Beans IDE に関する記載を削除
			改版理由	動作環境条件変更
	-	変更	改版内容	対応 Eclipse IDE バージョンを Eclipse 3.0／3.1 から Eclipse 3.6 に変更
			改版理由	動作環境条件変更
	-	変更	改版内容	VisualPresenter での i モーション再生完了後に、端末エミュレーション画面の右クリックメニューで「MP4 再生終了」を選択すると、ディスプレイ側のウィンドウが応答しなくなる不具合を修正
			改版理由	不具合対応

版数	項目	種別	内容	
3.10	-	変更	改版内容	setup.exe を実行したユーザ以外でエディタ設定等の一部設定の初期値が空欄となる不具合を修正
			改版理由	不具合対応
	-	変更	改版内容	HTTP 通信機能において、通信処理中に <code>HttpConnection.close()</code> によって強制的に切断した場合に再接続できなくなる不具合を修正
			改版理由	不具合対応
	-	変更	改版内容	C ドライブ以外を Windows システムドライブとしている場合でもインストール先の初期値が C ドライブとなってしまう不具合を修正
			改版理由	不具合対応
	-	変更	改版内容	ADF の PackageURL にパラメータ付き URL を設定すると i アプリ連携起動できない不具合を修正
			改版理由	不具合対応
	-	変更	改版内容	端末ウィンドウ名称に半角空白を含むエミュレーション端末を選択するとアプリの起動に失敗する不具合を修正
			改版理由	不具合対応
	-	変更	改版内容	Windows7 環境において、動作認識機能 API の取得値にばらつきがでる場合がある不具合を修正
			改版理由	不具合対応
3.11	-	変更	改版内容	FEP を起動し、終了後にキーパッドの状態が FEP 起動時点のまま残存してしまう不具合を修正
			改版理由	不具合対応
	-	変更	改版内容	HTTP 通信機能において、サーバからのレスポンスコード 401 受信時に <code>HttpConnection#getResponseCode()</code> でレスポンスコードを取得できない不具合を修正
			改版理由	不具合対応
3.12	-	変更	改版内容	Eclipse プラグインをインストールすると Eclipse の起動時に Conflict 警告がログ出力される不具合を修正
			改版理由	不具合対応
	-	変更	改版内容	メール API、メッセージ API 使用時に i アプリが強制終了する場合があります不具合を修正
			改版理由	不具合対応
3.13	-	変更	改版内容	メールアドレス設定画面で、アドレスの追加を行わずに選択の変更のみを行って画面を閉じると、変更が反映されない不具合を修正
			改版理由	不具合対応
3.13	-	変更	改版内容	Font.getFont(int,int)で指定したフォントサイズと Font#getHeight()で取得するフォントサイズが一致しない場合がある不具合を修正
			改版理由	不具合対応

版数	項目	種別	内容	
3.13	-	変更	改版内容	ランチャモードによる i アプリ連携起動時に、起動先アプリケーションにて IApplication#getSourceURL()で取得できるダウンロード元の URL が “/” となってしまう不具合を修正
			改版理由	不具合対処

1. はじめに

本書では、「iα ppli Development Kit for DoJa-5.1(FOMA)」の概要と制限事項について説明します。

機能概要

「iα ppli Development Kit for DoJa-5.1(FOMA)」は、i アプリの実行環境を Windows XP もしくは、Windows 7 上でエミュレートすることによって、i アプリの開発を支援するソフトウェアです。また、Java 開発者向けの Eclipse IDE と連携が可能で、エミュレータの機能を駆使せずとも i アプリの作成を進めることができます。詳しくは、「iα ppli Development Kit ユーザーズガイド」を参照してください。

制限事項

1. 「iα ppli Development Kit for DoJa-5.1(FOMA)」の赤外線による OBEX 通信は、Windows98 では、irxfer.exe を、Windows2000/XP では、irmon.dll を利用しています。このため、「iα ppli Development Kit for DoJa-5.1(FOMA)」と移動機間での赤外線による OBEX 通信はできません。なお、「iα ppli Development Kit for DoJa-5.1(FOMA)」同士の赤外線による OBEX 通信は可能です。
2. Windows 7 環境でのご使用に関する制限事項
 - 「iα ppli Development Kit for DoJa-5.1(FOMA)」は 32 ビットアプリケーションですので、64 ビット環境へインストールする場合においても、32 ビット版の JDK がインストールされている必要があります。また、Eclipse プラグイン for iα ppli を使用する場合も、32 ビット版の Eclipse を使用してください。
3. TextBox および Canvas.imeOn()に関する制限事項
 - processEvent()の KEY_RELEASED_EVENT 処理内で Canvas.imeOn()を呼び出して FEP を起動したとき、1 回目の Enter キー押下が無視されます。Enter キーによる確定動作のためには、Enter キーを 2 回押下してください。
 - DoJa-5.1 では、FEP における改行コードは CRLF("\r\n")に統一されていますが、LF("\n")も使用可能です。しかしエミュレータでは、改行コードに LF("\n")を使用した場合に正しく改行コードと認識されず、スペースに置き換わって表示されてしまう場合があります。改行コードには CRLF("\r\n")を使用するようにしてください。
4. Camera に関する制限事項

エミュレータでは実際の画像撮影は行なわれず、takePicture()メソッド呼び出しで Windows のファイル選択ダイアログが表示され、選択された画像ファイルが撮影画像としてアプリケーションに渡されます。この仕様により、以下の点で実機の動作と異なります。

 - 撮影画像サイズセットした Camera オブジェクトでの撮影においても、取得される画像サイズは選択画像ファイルに依存します。
5. トラステッド i アプリから HTTP 通信を行なう場合に、User-Agent ヘッダへのトラステッド ID 付与は自動的には行なわれません。User-Agent にトラステッド ID が付与された状態の試験を実施する必要がある場合は、アプ

リケーション動作環境設定ウィンドウネットワーク設定タブの User-Agent を変更して実施してください。

6. **AudioPresenter、Audio3D に関する制限事項**
本版では、通常再生モードでのサウンド再生に DirectX 8.1 以降が必要です。
「通常再生モード」では、com.nttdocomo.opt.ui.AudioPresenter2 の鳴動は再生されません。
7. **ApplicationStore に関する制限事項**
selectEntry()メソッドは、本来ユーザ操作によって端末に保存されている i アプリのエントリが選択されるメソッドですが、エミュレータではアプリー覧は表示されず、固定のエントリ ID が返却されます。
8. **CallRecord に関する制限事項**
getLastRecord(int type)は、引数 type により着信履歴(CALL_IN)/発信履歴(CALL_OUT)を指定して取得できますが、エミュレータでは何れを指定しても着信履歴ファイル (lib/phonehistory/phonehistory.lst) の先頭の内容を返します。
9. **VisualPresenter に関する制限事項**
i モーション再生では固定のダミー動画が再生されます。
10. **AudioTrackPresenter に関する制限事項**
i モーション (サウンドトラック) 再生では固定のダミー動画が再生されます。
11. **MediaPlyer に関する制限事項**
i モーション再生ではダミーのメディアプレイヤーが再生されますが、ダミー動画などは再生されません。
12. **仮想 FeliCa データファイルビューワに関する制限事項**
フリー領域を使用するアプリケーションは A D F の FeliCaCPID と FeliCaPIN の値を仮想 FeliCa データファイルに適切に設定する必要があります。
13. **Graphics3D に関する制限事項**
プリミティブ描画の際、レンダリング時 (Graphics3D.renderPrimitive()メソッド呼び出し時) に指定するプリミティブ属性に Graphics3D.ATTR_BLEND_ADD または Graphics3D.ATTR_BLEND_HALF を指定すると正常な描画結果が得られないことがあります。これは、エミュレータがピクセルの色情報を RGB 各 8 ビットで保持しているのに対し、3D グラフィックスエンジンが行なう半透明描画演算ではピクセルの色情報を RGB 各色につき上位 5 ビットのみをその演算対象としていることに起因します (これは 3D グラフィックスエンジンの仕様となります)。実際の携帯電話上では、i アプリ実行環境で保持する色情報と 3D グラフィックスエンジンが行なう描画演算の精度は一致しているため、このような問題は発生しません。
なお、エミュレータ上で本問題を回避するには、プリミティブが描画される背景の各ピクセルについて RGB 各色の下位 3 ビットをマスク (0xf8 との論理積をとる) します。ただしこの場合、描画データが本来持つ色情報が部分的に失われるので注意が必要です。
14. **i アプリオプション A P I PictureLight に関する制限事項**
setColor()で、高輝度発光中に呼び出すとタイミングによりライトの色が変化する事があります。

15. i アプリオプションAPI RadioTunerに関する制限事項
エミュレータでは実際にラジオ再生は行われないため、AudioPresenter等 サウンド再生との競合時動作は発生しません。
16. OpenGL/ES に関する制限事項
GraphicsOGL クラスの glEnableClientState()、glDisableClientState()に GL_NORMAL_ARRAY を指定する／しないに関わらず、同クラスの glNormalPointer()に設定した値が有効になります。
17. FeliCa アドホック通信に関する制限事項
活性化状態から非活性化状態に遷移した後、FelicaServerObexConnection#accept()を呼び出した際に、SecurityException ではなく IOException が発生します。

2. 起動方法

「iα ppli Development Kit for DoJa-5.1(FOMA)」は、大きく分けて2通りの起動方法があります。一つはiα ppliToolを起動する方法で、もう一つは、iアプリを単体で起動する方法です。

iα ppliTool の起動

Windows の『スタート』⇒『プログラム』⇒『iα ppli Development Kit for DoJa-5.1(FOMA)』⇒『iα ppliTool for DoJa-5.1(FOMA)』を選択するか、コマンドラインから引数なしで `doja.exe` を実行すると、iα ppliTool が起動します。

また、`doja_g.exe` を実行すると、デバグが可能な iα ppliTool が起動します。

`doja.exe` および `doja_g.exe` は、

「iα ppli Development Kit for DoJa-5.1(FOMA)」を `c:\iDKDoJa5.1` にインストールした場合、
`c:\iDKDoJa5.1\bin`
の下にあります。

i アプリ単体の起動

コマンドラインから、

`doja.exe -i ADFファイル`

を実行すると、ADFファイルを読み込み、ADFファイルと同じディレクトリにJARファイルがダウンロードされたとして、i アプリが実行されます。

例：

`doja.exe -i ..\apps\CarRace\bin\CarRace.jam`

`doja.exe` では次のようなオプションを指定できます。

- ・ `-mx` ヒープサイズ[K|M] (Byte) 例： `-mx 8000K -mx 8M`
(このパラメータは、他のパラメータより最初に指定してください。)
- ・ `-i` ADFファイル
- ・ `-s` スキン名
- ・ `-version`
- ・ `-help`
- ・ `-t` 起動タイプ番号
(0: 通常起動 1:初回起動 2:タイマ起動 3:待受起動 4:外部機器起動 5:ブラウザ起動
6:メーラ起動 9:即起動 10:受信フォルダ起動 11:送信フォルダ起動 12:未送信フォルダ起動
13:位置情報起動 14:位置情報画像起動 15:位置情報電話帳起動 18:トルカ起動
19:FeliCa アドホック起動 20:削除時起動 21:アプリ連携 (アプリ内から))

※ 起動したアプリがアプリ連携をする場合は、`-t 21` を指定してください。

- -j JARファイルのパス
- -u ADFへのURL
- -w Windowsの親ウィンドウのハンドラ値
- -p 起動パラメータキー 1 起動パラメータ値 1 . . . -p 起動パラメータキー 16 起動パラメータ値 16

doja_g.exe では次のようなオプションを指定できます。

- -debugger
- -suspend
- -nosuspend
- -jdkpath JDKのインストール先ディレクトリ
- -port デバッグエージェント間デバッグ用ポート番号
- -debugport IDE間デバッグ用ポート番号

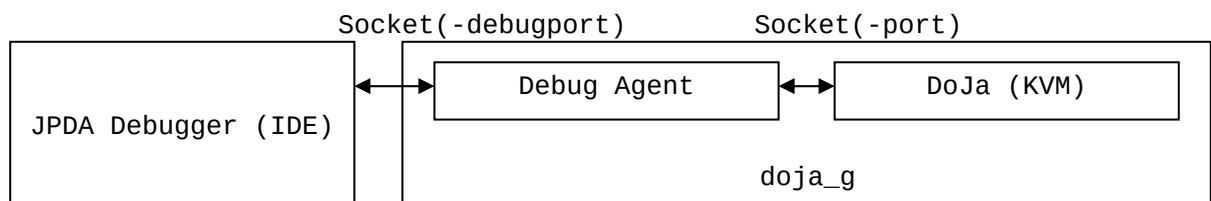


図 2-1 デバッグインターフェースアーキテクチャ

- -traceallocation
- -tracegc
- -tracegcverbose
- -traceclassloading
- -traceclassloadingverbose
- -traceverifier
- -tracestackmaps
- -tracebytecodes
- -tracemethods
- -tracemethodsverbose
- -tracestackchunks
- -traceframes
- -traceexceptions
- -traceevents
- -tracemonitors
- -tracethreading
- -tracenetworking
- -traceall

※ なお、doja.exe 及び doja_g.exe をコマンドプロンプトから起動する場合、すべてのコンソール出力内容 (-version や -help の表示含む) はリダイレクションによるファイル出力を行う必要があります。

■例：

doja.exe > out.txt